

2-11

お客様の個別性の尊重に向けて

グループケアの実践

個別ケア

ワーカーの意識改革

特別養護老人ホーム 偕楽園ホーム

ケアワーカー 田中健太郎	ケアワーカー 丹治敬
八王子市宮下町 983 番地	ケアワーカー 高橋毅
TEL : 042-691-2830	E-mail : home@kairakuen2830.sakura.ne.jp
FAX : 042-691-8288	URL : http://www.kairakuen2830.sakura.ne.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	昭和 55 年以来自然に囲まれ「福祉の心」を育んできました。今後も特養(100 床)、 ショートと居宅支援事業のサービスを通して地域のお役に立ちたいと思います。一 人ひとりの「生活の質」「あなたらしい生活」を大切に「寄り添うケア」を心が けていきます
----------------------------	--

<p>〈取り組んだ課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・自発的活動の乏しい利用者への積極的働きかけ、それによる一人ひとりの個性の把握と個別性の尊重・利用者間、及び利用者と職員間のなじみの関係を深めることによる安心と安らぎ・集団的、画一的ないし決まり事による介護からの脱皮・「介護の楽しさ」とは何か？成功体験を共有し、仕事のやりがいを育て、介護離れを防ぐ・ <p>〈具体的な取り組み〉</p> <ul style="list-style-type: none">・1フロア 50 人の利用者及びフロア担当ケアワーカーを A・B・C・D の小グループに分け、グループケアを通してなじみの関係と個別ケアを深める・きめ細かい利用者評価（アセスメント）で、個別リハビリと事故対策を徹底していく・グループごとの個性などに応じ、毎月余暇活動などの催しを行う・毎月のグループミーティング、グループ長ミーティングにより、利用者理解、課題発見、対策検討の場とし、情報共有を深める	<p>〈活動の成果と評価〉</p> <ul style="list-style-type: none">・業務中心の介護から利用者主体の介護に、ワーカーの考えが進んだ・個別対応の行事や外出、話し合いや散歩、家族との係わりが増え、個々の利用者にゆとりや潤いが増えた・仕事の中に「楽しみ」と職員間の「共感」が高まった・介護の対象人数が少人数化することで、一人ひとりの個性、ニーズ、隠れた意識や潜在能力見えやすくなった <p>〈今後の課題〉</p> <ul style="list-style-type: none">・限られた空間の中で、いかにグループ単位の生活空間を構築していくか・利用者一人ひとりの個性を反映した余暇活動をどう提供するか。各ワーカーの力量を一層高めて行くこと・認知症ケアを重視したグループケアで、自立度の高い利用者に対するケアをどう提供していくか・一人ひとりの個別ケアをより進めること・遠くない将来のユニットケアに繋げるノウハウを培うこと <p>〈参考資料など〉</p> <div style="border: 1px dashed black; height: 60px; width: 100%;"></div>
--	---

【メモ欄】